



大東小のSDGs

副校長 菅原 友子

「SDGs」。この言葉が日常生活の中で聞き慣れているものになってきました。“S”は Sustainable、“D”は Development、“G”は Goals の頭文字から成り（最後の“s”は複数形）「持続可能な開発目標」という意味です。昔に比べるとありとあらゆるものが格段に便利になり、その一方で「環境破壊」「資源枯渇」「貧困」と世界的に抱えている問題は悪化するばかりです。そこで、このままだと地球がもたない、子どもたちの未来がない、どうにかしなければいけないと、2015年9月にニューヨークで行われた国連サミットで“SDGs”が採択されました。2030年までに世界の人々が豊かな自然の中で幸せに生き続けられるように環境・生活・人権・平和など17の目標が設けられました。

さて、本校では5月から委員会活動が本格的に始まり、5、6年生は大東小の学校生活がより充実して過ごせるように活動しています。その中で「リサイクル・環境整備委員会」は、2014年から、石神井清掃事務所のご協力をいただきながらリサイクルについて学び、校内環境を整える活動をしています。各教室には紙を3つの種類に分別できるように籠を用意したり、委員会では、ポスターを作成したりするなどして、ごみの分別やリサイクルについて学校全体に呼びかけもしています。この活動は、まさに17の目標の中の12番目「つくる責任 つかう責任」に当てはまっていることに改めて気付きました。たくさん資源やエネルギーを使って、食べ物や身の回りのものを作り消費している中で、これからも継続していける生産・消費をしていくための3R（ごみを減らし、再利用し、資源化すること）を8年も前から学校全体で取り組んでいたのです。

何か特別なことを始めるのではなく、今まで行ってきたことが「SDGs」の取組になっている…。身近な活動の中に同じような発見があるかもしれません。大東小では、さらにこれから何ができるのか、各教科や総合的な学習の時間などを通して「SDGs」を考えていきます。



▲昨年度の「リサイクル・環境整備委員会」が作成した“標語”が石神井清掃事務所に掲示されています。